

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第46週 (11/9-11/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		46週	45週	44週	43週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	11/9-11/15	11/2-11/8	10/26-11/1	10/19-10/25	11/2-11/8
			46週	45週	44週	43週	45週
小児科	RSウイルス感染症	○	11 0.61	5 0.28	4 0.22	7 0.39	107 0.79
	咽頭結膜熱	○	11 0.61	2 0.11	1 0.06	0 0.00	43 0.32
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		34 1.89	24 1.33	43 2.39	29 1.61	326 2.41
	感染性胃腸炎		86 4.78	69 3.83	70 3.89	56 3.11	509 3.77
	水痘		9 0.50	18 1.00	6 0.33	4 0.22	81 0.60
	手足口病		6 0.33	24 1.33	28 1.56	30 1.67	109 0.81
	伝染性紅斑	○	14 0.78	9 0.50	13 0.72	17 0.94	71 0.53
	突発性発しん		15 0.83	17 0.94	11 0.61	7 0.39	67 0.50
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.06	7 0.05
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	1 0.06	1 0.06	7 0.05
	流行性耳下腺炎		12 0.67	6 0.33	9 0.50	7 0.39	94 0.70
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.07	2 0.07	0 0.00	4 0.14	34 0.16
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	7 1.40	12 2.40	16 3.20	20 0.59
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	2 2.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	1 1.00	1 1.00	1 1.00	1 0.11
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	結核	女性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	30歳代	病原体等の検出	アメーバ赤痢	男性	30歳代	病原体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	ウイルス性肝炎	男性	30歳代	血清IgM Hbc抗体の検出
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	60歳代	菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	女性	10歳代	画像診断等				

・結核6件(195)、アメーバ赤痢1件(9)、ウイルス性肝炎1件(5)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(14)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

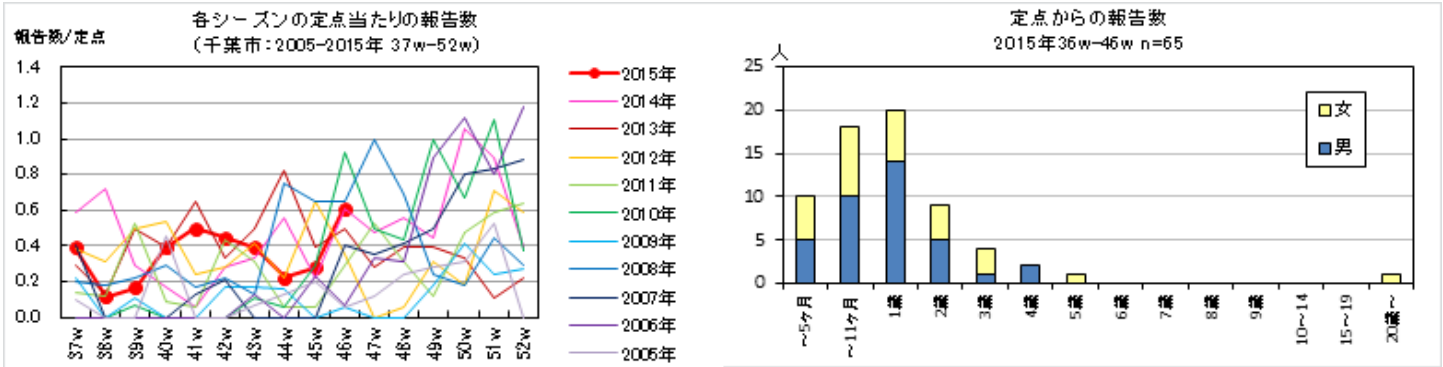
定点当たり報告数 第46週のコメント

- <RSウイルス感染症> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- <咽頭結膜熱> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると最多。
- <伝染性紅斑> 前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

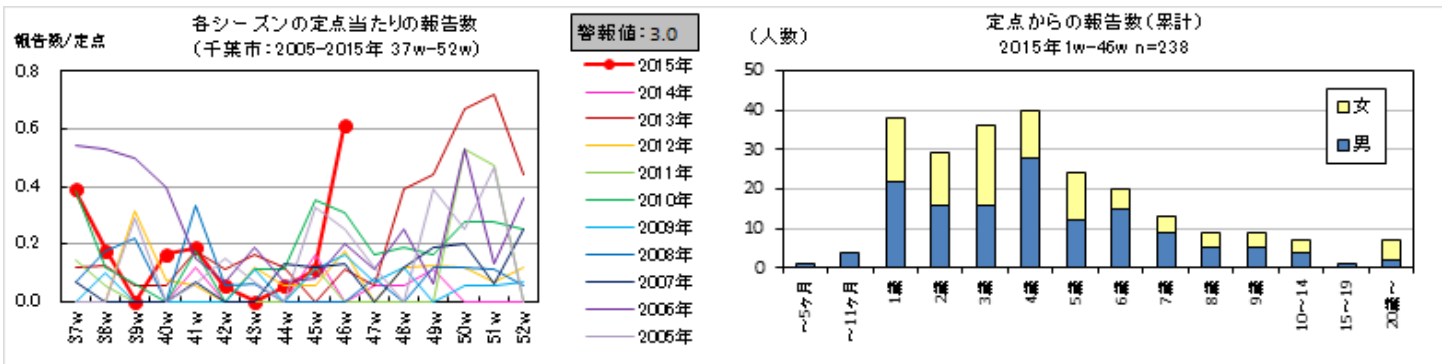
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第45週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、山形県、福島県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2015年第46週は前週より増加し0.61となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(2.25/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第45週までの累積報告数(n=65)によると、性別では男性が56.9%(37名)、女性が43.1%(28名)で、年齢階級別では1歳(30.8%:20名)、6～11か月(27.7%:18名)、5か月未満(15.4%:10名)の順に多くなっています。



＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第45週現在は、過去8年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、鳥取県、鹿児島県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干少なめとなっています。千葉市の2015年第46週は前週より増加し0.61となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、花見川区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値と並び最多で、同区の2歳及び5歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第45週までの累積報告数(n=238)によると、性別では男性が58.8%(140名)、女性が41.2%(98名)で、年齢階級別では4歳(16.8%:40名)、1歳(16.0%:38名)、3歳(15.1%:36名)の順に多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルは第26週から連続して過去8年の同時期と比べて最多の状態となっており、第45週現在も同様となっています。都道府県別では、大分県、山形県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じレベルとなっています。千葉市の2015年第46週は前週より増加し0.78となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で最多で、同区の6～11か月、3歳、4歳及び10歳代前半で発生報告がありました。2015年第1週から第46週までの累積報告数(n=709)によると、性別では男性が53.7%(381名)で女性が46.3%(328名)で、年齢階級別では5歳(15.8%:112名)、4歳(15.4%:109名)、6歳(14.8%:105名)の順に多くなっています。

